

# JAMCA ジヤムカ ニュース

The Japan Automobile Maintenance Colleges Association

**No.27**  
2000年10月1日

発行 全国自動車整備専門学校協会  
 協会事務局 〒160-0015 東京都新宿区大京町31  
 ヴィップ新宿御苑 ☎ 03-3356-7066  
 編集事務局 〒125-0002 東京都葛飾区西亀有3-28-3  
 ☎ 03-3601-2535 FAX 03-3601-2988



## 外部環境に対処し良質な整備士教育を堅持

日産自動車整備専門学校校長 小倉 邦彦  
 全国自動車整備専門学校協会理事

数年前、当校の卒業式に来賓として出席されたある会社の役員さんが、「どうですか、学校の先生は?。3日やったら、辞められないでしょう」と言われた。最近の学校を取り巻く環境は余りにも厳しく、日々、大変な苦勞をしているだけに、私たちは一瞬絶句してしまっ

た。この所、学校経営は一年ごとに厳しさを増し、伝統ある協会加盟校の学校幹部の方々も、生き残りをかけ懸命の努力をされていることであろう。

### 学生の定員確保

厳しさを増す外部要因の第一は、学生の定員確保である。

学校教育法の82条校である専修学校は、1条校とは異なり公的助成もゼロとか僅少なため、学生入学数で翌年度以降の事業計画が大きく変わってくる。

日本私立学校振興・共済事業団の調査では、今春、4年制私立大学で28%、短大で58%が定員割れで、「学生数に応じた学校規模の縮小等、経営努力が求められる」と結んでいる。

専修学校は近年、文部省や関係機関のご努力とご理解のお陰で、専門士、大学編入、公的資格受験時の学歴認定、留学生ビザ等に、多くの改善が見られ、また生涯学習の観点から、何時でも、何処でも、誰でも学べる学校として社会的期待も高まり、日本の高等教育機関として定着してきた感がある。

しかし、世間一般、とりわけ高等学校の進路指導の先生方にとって、専修学校は学校設置基準が弾力的で緩やか



なために新規参入も多く、また、各校が個性的で、専門課程も多岐にわたるため、進路指導がしづらという。

### 学力崩壊が進行

第二は、国家資格取得と学生の学力問題である。

先日、ある経済誌の6月号で、「日本を蝕む学力崩壊」という特集が組まれていた。同誌によれば、日本の未来を担う若者の「学力低下」が深く進行。

「ゆとり教育」を履き違えて「知」を軽視する風潮が蔓延し、少子化で受験圧力が減ったこともあって、高校生は世界で一番勉強せず、小学生の算数が出来ない大学生、試験問題の意味さえ理解出来ない受験生が増えているという。我々が、まさに国家2級受験指導で、泣かされていることではある。

### 厳しい雇用情勢

第三は、就職斡旋問題である。

労働省の発表では、昨年度の失業率は、米国を抜いて最悪の4.7%で、失業者は300万人超。今春の高卒就職率は88.2%と過去最低を更新し、大卒は

91.1%で、就職が内定しないまま卒業した学生は3万人、定職に就かないフリーターは151万人、このうち8割が今はやりのパラサイトとのことだ。

自動車関連業界も、グローバル時代の到来と長い国内需要の低迷、整備部門の生産性向上、固定費削減等から、当分厳しい雇用情勢が続くであろう。

学校内部の問題、例えば教職員の資質向上とか、教材の更新、カリキュラムの改訂等、自分たちの努力で解決できる問題と違って、これらは、社会や時代と深くかかわっているだけに極めて深刻である。

厳しい環境変化にどう対応していくかは、それぞれの学校の体制、立地、校風と伝統等により異なると思う。

しかし、これから益々高まるであろう実力第一の社会で、子弟に専門技術や資格を取らせてやりたいという保護者の切実な願いや、省エネ、リサイクル、環境、情報と自動車の先端技術が果てしなく広がっていくことを考えた時、我々は、何とかして車好きで未来ある若者を発掘し、良質な教育を提供し続ける学校群として存続したいし、そのための知恵と努力を惜しんではいけないと思う。

CONTENTS	
2面	OPINION
3面	北から南から
4・5面	特集・ 高校生の意識ふまえた学校広報
6面	協会トピックス
7面	活躍卒業生・地区通信
8面	私の教材活用・編集後記